

# 芸友

Buzanbussei Buyu

題字 田代弘興 猊下

第159号

<http://bussei.gr.jp/>



創立60周年

真言宗豊山派仏教青年会  
創立六十周年記念結集

雲外蒼天

# 第三十八回全真言宗青年連盟結集 根来寺大会

## 第三十八回全真言宗青年連盟結集 根来寺大会に参加して

東京一号 金兼院 塚田宝貴

平成二十九年十月二十日・三十一日に、第三十八回全真言宗青年連盟結集根来寺大会が開催された。

台風二十二号の影響が心配されたが、幸いにも開催日の前日に近畿地方を通過し台風一過の爽やかな天気のもと結集当日を迎えることができた。

一日目は、晩秋の風が吹く根来寺大伝法堂に全陣より二百名を超える真言宗各派の青年僧侶が集まり、記念法会御影供が厳修された。根来寺を訪れるのは第十七回三派結集根来寺大会以来であり、実に三年ぶりであった。その時には報恩講出仕論議・陀羅尼会が厳修され、職衆として参加させていただけいたことはとても貴重な体験であった。今結集の法会も新義真言宗管長総本山根来寺座主中村元信親下を導師に賜り、ご本尊大日如来の御宝前にて厳修され私にとって貴重な体験となった。また真言宗中興の祖である曠教大師覚鑿上人の眠る場所にてお祈りすること

ができたことは大変喜ばしいことであった。

二日目は、リーガロイヤル大阪にて介護ジャーナリスト小山朝子先生と公益財団法人チャイルド・ケモ・サポート基金理事長楠木重範先生による講演がおこなわれた。

「介護を通じて見えるもの」、「がんになった子ども達からのメッセージ」という大変難しい講演テーマであったが、長年現場で活躍されている先生の貴重な話しを聞くことができた。そのなかでも小山朝子先生の「介護では相手の目線にたつことが大事である」という言葉とそれについてのお話しは特に印象に残った。



今大会のテーマである「思い、寄り添う守るために」について全真言宗青年連盟理事長鈴木木道盛師は「多くの方々が被災され不安な日々を送っている時代に我々は心で思い、どのような活動が出来て人々と寄り添っていきけるのかを考えなければならぬ」とおっしゃった。今結集は私に真言宗青年僧侶としてそのことについて考える良い機会となった。



# 真言宗十八本山お砂踏み in 西新井大師

平成二十九年十一月二日・三日の二日間において、全真言宗青年連盟主導の基、真言宗十八本山お砂踏みin西新井大師が開催されました。真言宗十八本山の各境内より「お砂」を一室に集め、この「お砂」を踏みながらお参りすることで各本山の二本尊様とご縁を結ぶことができるという大変素晴らしいご利益に加え、西新井大師の境内のいたるところで写経・写仏や瞑想法の体験、法衣の試着体験、法具のご紹介など他にもたくさん体験・見学のできるイベントや、各宗派による法要、御詠歌、雅楽の公演や豊山太鼓「千響」による公演など本場に見どころ満載の盛大な仏教フェスティバルとなりました。

豊山派仏教青年会の催しとしては、全真言宗青年連盟理事長鈴木木道盛師を導師にお迎えしての災害復興祈願法要、声明公演、豊山太鼓「千響」による公演、雅楽の公演がありました。全ての公演が

大盛況で参拝者の方々が大変喜ばれている姿が印象的でした。私は二日間ずっと記録用の写真を撮るためにいろいろな場所をまわっていたのですが、たくさんの方々の参拝者の方々が豊山派のイベントに夢中になっている様子を見て豊山派は凄いななど少し誇らしい気持ちになりました。また、他宗派による公演も、普段はなかなか見られる機会がないので、ここぞとばかりにじっくりと拝見することが出来ました。豊山派の声明と異なる部分や、各派の特徴を活かすための工夫が随所に見られてたいへん興味深い内容でした。

広報次長 藤山昌弘



# 雲外蒼天

六十一年からの飛躍

平成二十九年  
十一月十二日(日・友引)  
十三日(月・先負)

「人とのつながりに感謝」

結集実行委員会事務局 三重仏青 内田 秀明

平成二十九年十一月十二日、十三日に豊山仏青創立六十周年記念結集・第四十五回全国結集総本山長谷寺大会が、総本山長谷寺・奈良ロイヤルホテル・春日大社を会場に、約百名の参加者の中、盛大に開催されました。当日の様子や、それまでの準備などを報告させていただきます。

第一日目、十一月十二日、午後一時三十分、総本山長谷寺観音堂において、この結集の記念法要としてのご本尊開帳法要が、総本山長谷寺化主田代親下ご登壇・ご親修のもと長谷寺の各執事様、職員、

学生の出仕の中で執り行われ、結集の幕が上がりました。記念品として配られた長谷寺勤行法則を手に参加者もおともに唱えをさせていただきました。百名以上の僧侶が一心にご本尊様へ祈りをささげる様子に、身の震えるような感激を覚えました。六十一年の豊山仏青の活動を無事にこれまで進めることができましたことを感謝し、これから新たな活動を進めていくことを胸に誓う場として、ご本尊十一面観世音菩薩様の御前にて、またお足元に、気持ちを新たにすることができた時間でありました。

創立六十周年のお祝いとして奉納された総本山長谷寺御本尊十一面観世音菩薩様を描いた絵巻(華蔵院住職 木下堂弘師 作)の開眼法要の様子



その後、本坊大講堂へ移動して記念式典を行いました。親下ご入場の後、法楽、御垂示、来賓の佐々木奈良支所長のごあいさつ、記念目録贈呈、感謝状拝受、木村会長謝辞、法楽、親下退場、という流れでありました。親下のお言葉の中には、「仏青ができた時には大学生だった。」とあり、そのころの懐かしいお話を聞かせていただくこ



とができました。私たちの生まれる前の、豊山仏青が生まれた頃のお話を聞かせてもらい、また今後の活動への激励のお言葉もいただき、身の引き締まる思いでありました。本坊前にて全員で記念撮影を行い、バスで懇親会・宿泊会場である奈良ロイヤルホテルへ移動しました。

思わぬ交通渋滞の中、移動に時



間がかかり開始が少し遅れたものの、懇親会がスタートしました。こちらも親下にご臨席いただきました。五十嵐総本山長谷寺事務局長・三重県の岩本宗会議員様からご挨拶をいただき、石島三重支所長のご発声で乾杯、歓談に移りました。懇親会の中では、喜田実行委員長より来賓の皆様や参加者へお礼の言葉があり、その後は参加者へ書いていただいたアンケートの集計内容の報告、記念法要と記念式典の際の写真音楽とともに上映され、楽しくも和やかな中で時間が過ぎていきました。木村会長の謝辞、急に指名された林副会長のお話で



会場は笑いに包まれ、最後には喜田実行委員長も舞台上上がり、全員の一本締めでお開きとなりました。その後は各自で、奈良の夜を楽しまれていたようです。



日が変わり二日目、十一月十三日、秋晴れの下、バスで春日大社へ移動して、職員様にご案内いただきました。二つのグループに分かれて参拝しましたが、本殿の前では正式参拝をさせていただき、長谷寺と春日大社とのこれまでの長いつながりの歴史を感じるとともに、その歴史から続くこれからの時間の中に自分たちがいることを改めて実感し、次世代へつなげていかなければいけないと、身の引き締まる思いでありました。その後、春日大社の会館をお借りして、閉会式を行いました。法楽、春日大社よりのご挨拶として職員の千鳥様からお話をいただき、二日間行



## 春日大社縁起

今から約千三百年前、茨城県  
の鹿島より武甕槌命をお迎えし  
ました。その後西暦七六八年に、  
称徳天皇の勅命により左大臣藤  
原永手によって、神山御蓋山中  
腹の現在の場所に壮麗絢爛な社  
殿を造営し、香取から経津主命、  
枚岡より天兒屋根命、比売神の尊い神々をお招きし、四柱の  
神々を合わせてお祀りしたのが始まりです。



武甕槌命、経津主命は日本の国の秩序を守り、天兒屋根命  
は神事と政治を守る神、比売神は天兒屋根命の妃神、時には  
天照大神ともいわれることがある愛と平和を守る神です。

創建以来、千古の森の中に朱の柱、純白の壁、総檜皮葺の  
荘厳な屋根が今も変わらぬ姿で鎮まっております。二十一年に一度  
の式年造替によって社殿の御修繕、調度品の御新調、祭儀の  
厳修により連綿と受け継がれてまいりました。

御分社は全国三千を数え、日本のみならず世界の平和、万  
人の幸福、共存共栄が祈り続けられております。

平成十年十二月には、春日大社と春日山原始林を含む「古都  
奈良の文化財」がユネスコの世界遺産に登録されております。

御創建千二百五十年を迎えます。



動を共にしていただいた来賓であ  
る高知県長崎宗会議員様より結  
集の感想や参加した仏青会員へ今  
後の活動への期待を込めた激励の  
お言葉をいただき、喜田実行委員  
長より会場にいたすべての人の心  
が温まる謝辞を聞き、法楽で閉会  
式が終わりました。二日間の日程  
が無事に終わり、参加者はそれぞ  
れ帰路につかれました。



今回の結集を開催するにあたり、  
地元実行委員会の事務局長を務め  
させていただきました。それは一  
月三十日、喜田実行委員長からの  
突然の電話から始まりました。「今  
度、長谷寺で結集をすることにな  
り、お手伝いをしてほしいのです  
が。」その話に、「できることしか  
できませんが。」と返事させてもら  
い、気が付けば事務局長になって  
いました。それからの約十カ月、  
これまでの人生では経験すること  
ができなかった、もしかすると今  
回のこの事務局長をお受けしてい  
なければ今後も経験できなかった  
かもしれない時間を過ごすことが  
できました。今回の結集では、関  
西四国の各地区仏青から数多く  
参加して実行委員会を組織しまし  
た。関西四国といっても、愛知・  
滋賀・三重・奈良・愛媛・高知の  
六つの地区仏青があり、とても広  
い地域の中で実行委員会を進めて  
いくことになりました。奈良の長  
谷寺、愛知の名古屋、滋賀の長浜、  
三重の伊賀、四国の香川、時には  
大阪、京都でも会議を行いました。  
こんないろいろな場所へ行けたの  
も、今回の結集のおかげだと思っ  
ています。そして、実行委員会

つながることができた皆さんと、  
貴重な時間を共に過ごし、かけが  
えのない関係をつくることができ  
たのは、大変幸せな思いでいっぱ  
いであります。

今回の結集では、Webでの申し  
込み、地区仏青単位での参加者の  
取りまとめ、六つの地区仏青で実  
行委員会を組織するなど、これま  
での豊山仏青の結集にはなかった  
新たな試みを行いました。各地区  
仏青の会長様には、事務局と連絡  
を取り合う中で時間がかかってし  
まいご迷惑をおかけしました。参  
加者の皆さんにとっても、申し込  
みが面倒であったなどの意見も聞  
かせてもらっています。大変申し  
訳ありませんでした。しかし今回  
の経験と試みは、きっと今後の結  
集につながっていく、六十年から  
の飛躍の第一歩となることと信じ  
ています。

今、結集を振り返ると、「感謝」  
の思いでいっぱいです。執行部の  
皆さんをはじめ、六十周年記念事  
業実行委員会の皆さん、豊山仏青  
事務局員の皆さん、各地区仏青会  
長役員の皆さん、そして結集へ参  
加・申し込みいただいたみなさん、  
長谷寺・春日大社・奈良ロイヤル

ホテルの関係者の皆さん、ご来賓  
の皆様、地元実行委員会の皆さん、  
すべての結集に関わられた皆さん  
に、心より感謝を申し上げます。

最後に、この結集を通してご縁  
をいただき、新たなつながりを持  
たせていただくことのできた仏青  
の仲間がいます。これまでからつ  
ながっていた仲間との再会もあり  
ました。二日間、そして十カ月間  
を振り返ると、たくさんのつなが  
りを感じ、つながったみなさんに  
助けてもらい、そのつながりの中  
でもっとも感動し、つながりのおか  
げで無事に結集を成功させること  
ができたのだと思っています。結  
集を終えての、私にとって残った  
ものの一番の財産は、この「人と  
のつながり」です。今回の、新た  
なつながり、改めて確認できたつ  
ながりを大切に、今後も仏青活動  
に励んでいきたいと思っております。  
みなさんありがとうございました。

合掌

## 写仏講座

豊山仏青では写仏講座を行っております。興味のある檀信徒さまがいらつしやいましたら、是非ご案内ください。

平成30年

1月19日(金)

2月9日(金)

3月9日(金)

午後1時より宗務所にて

詳細につきましては豊山仏青ホームページをご覧ください。

また豊山仏青ホームページ、写仏講座中の「写仏を体験してみよう」では、体験コーナーをご用意しております。なぞってみたり、お子さまの塗り絵としても、ご利用ください。

## 編集後記

今号は、第三十八回全真言宗青年連盟根来寺大会、真言宗十八本山お砂踏み、豊山仏青六十周年記念結集第四十五回全国結集総本山長谷寺大会の三つの記事を掲載致しました。

豊山仏青六十周年事業も全国結集総本山長谷寺大会、日・タイ友好親善事業の二つのメイン事業を無事終えることが出来て今は少しホッとした気持ちでいます。大きな事業を無事乗り越えることが出来たのも、お忙しい中にも関わらずご参加いただいた皆様のお力のおかげでございます。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、私たち執行部の任期も残り僅かになってきましたが、最後まで気を引き締めて残る事業に取り組んで行きたいと思っております。

寒い日が続いておりますが、どうかご自愛いただき良いお年をお迎え下さい。

広報次長 篠山昌弘

写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青

検索



Facebook

[www.facebook.com/buzanbussei/](http://www.facebook.com/buzanbussei/)

豊友お問い合わせ先

[info@bussei.gr.jp](mailto:info@bussei.gr.jp)



豊友 第159号

平成29年12月18日発行

発行人 木村真弘

発行所 〒112-0012 東京都文京区大塚5丁目40番8号  
真言宗豊山派宗務総合庁舎内 真言宗豊山派仏教育年会

デザイン・印刷 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション